

母親

2023.3.7

今年度は、今までよりもお悔やみの機会が多くなった。自分とお付き合いのある方の親御さんである。コロナ禍が続いているため、会場に行っても、ご焼香させていただくことしかできないことが多い。

自分の年齢が上がり、その分、親も歳を重ねる。これは、お付き合いのある方の親御さんも同じである。私の父は5年前に他界した。母は、高齢ではあるが、幸いにも健在である。どのご家庭でもそうであろうが、親が目の前からいなくなるというのは、何とも言えず、様々な思いが込み上げてくるものである。一番は後悔であろうか。そして感謝である。

私の母は、滅多に何をしたいなどと言わないのだが、何年か前に、大内宿に行ってみたくて口にした。ご近所の方に勧められたのだそうだ。それで、穏やかな季節を選んで連れて行った。思いの外、歩けなくなっていたことに気づいた。「これが大内宿か」と何度も口にしていた。

喜多方ラーメンを食べてみたいとなった。これも季節を選んで、5月のゴールデンウィークの次の週末に連れて行った。これが失敗だった。この週末は、有名店が軒並みお休みだった。連休の分のお休みなのだろう。それでも、昔からの有名店の一つに入ることができた。本当は、もっとお勧めの店があったのだが。どうして今頃になって喜多方ラーメンとなったかはわからない。

もともと、遠くに旅行することなど、ほとんどなかった母の人生である。こちらはよかれと、どこどこに連れて行きたいと思っても、当の本人は、それほど思っていないのかもしれない。だからこそ、大内宿と喜多方ラーメンは特別なものとなった。

ここ数年は、〇〇したいと口にしなくなった。心配である。お盆や年末年始に孫の顔を見せに行くのが恒例である。うれしそうである。家人は、温泉に連れて行きたいと言うが、当の母は温泉が好きではないときた。他にも家人は、おいしいものを食べてもらいたいと言うのだが、当の本人には、さほどそのような思いがないことは知っている。それでも家人の気持ちは有難い。

昨年秋に、私の母親のお姉さん、私の伯母が亡くなった。101歳だった。昔からシャキッとした人だった。その妹である。長生きしている。それでも息子としては、何をやるではないのだが、この夏は大丈夫だろうか、この冬はどうだろうか心配になってくる。

今年も何とか春を迎えてくれた。いまだに体を動かしているのがいいのかもしれない。だが、その機会も少しずつ減ってきている。もう少し暖かくなったら、どこかに誘ってみようかと思う。歩くのは、さらにゆっくりになるだろう。それでもいい。特別なことはしなくてもいいから、一緒に歩くだけでいい。それが一番のように思う。